

音楽的な見方・考え方を広げる題材構成の在り方 — 郷土の音楽を教材に用いて —

西村 敬子

How to Structure Subject Matter that Broadens Musical Ways of Thinking — Using Local Music as a Teaching Material —

Keiko Nishimura

(2017年11月22日受理)

I 研究の基本的な考え

1 主題について

(1) 主題設定の理由

グローバル社会、知識基盤社会等と呼ばれ、個別化・流動化が加速する現代社会において他者と協働しながら正解のない問題に対応する力や生涯学び続ける力が求められている。今までに経験したことがないような問題に直面することも予測され、子どもたちは、「どの答えが最も適しているのか」「どの答え方が最も納得いくのか」を、他者と協働し答えを創造していかなければならない。

そのためには、広い知性を身に付ける必要があるが、柔軟に思考するためには知性を柔らかく包み込む感性が大切である。その中で芸術教科が担うものは大きい。芸術教科に求められている力は、教科の特性を生かし、知性だけではとらえられないことを知性と感性を融合させながら、自分の感じたことを他者に伝えたり対峙させたりしていく中で、自分なりに感じ取った答えを出していく能力である。田中(2006)は「音楽であれ美術であれ芸術は創造的です。芸術教育の核心の部分に何があるかと言えば『感動する力』です。(略)子どもの学びにとって感覚的な要素、音・光・色・形は欠かせません。

(略)すくなくとも小学生、中学生の場合、「感動」を生み出しやすいものは「言葉」ではなくさきほど挙げた4つ(音・光・色・形)の要素です。」と実際の音や映像等を体感し感動させることの必要性を述べている。感動経験を通して学ぶ芸術教科の学習は、今の社会が求めている自分なりの感じ方で「正解がない回答」を見出す力を育む上で重要な役割を果たすと考える。

新しく示された学習指導要領では、各教科においてそ

れぞれの教科の特有の見方・考え方を駆使し、知識を使い、新しい課題を解決する思考力、判断力、表現力などの力を育成するなどの「何ができるようになったのか」を追究している。

新しい小学校学習指導要領音楽の目標「表現及び鑑賞の活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を育成することを目指す」の中に記されている音楽的な見方・考え方とは、「音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、形づくっている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、生活や文化などと関連付けること」と考えられる。音楽的な見方・考え方は、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わることで培われる。これまでのように音階を使い、リズム・旋律・和音の三要素を駆使した形の中で作曲されている耳慣れた西洋の音楽に触れるだけでなく、拍節感がなかったり微小な音程の変化による不協和音が鳴り響いたりするような我が国の音楽や他国の音楽の価値・文化を理解する経験を通して、音楽的な見方・考え方を広げることが求められているのである。耳慣れない、普段触れることがない音楽の価値やよさを味わうことが、音楽的な感性を育てる上で重要であると考えられる。

平成29年3月に出された小学校学習指導要領では、改訂の基本的な考え方の中で、「我が国や郷土の音楽に親しみ、よさを一層味わうことができるよう、和楽器を含む我が国や音楽の学習の充実を図る」ことが示された。今までの学習指導要領で取り組んできた「我が国や郷土の伝統音楽に親しみ、よさを一層味わえるようにしていくこと」について、更なる充実が求められたところである。

しかしながら、多くの教師は西洋の音楽に親しみ、民

謡や郷土の音楽、諸外国の音楽、現代音楽などに触れる機会が少ないばかりか、苦手意識を抱いている状況である。指導の場面に至っては、指導書の通りに授業を進めることはできる。しかし、教科書に載っている教材は住んでいる地域と離れた地域のものであったり、指導者が全く知らない楽曲であったりすることも多い。教師が教材曲のよさをつかめないまま授業を進めたのでは、子どもの音楽的な見方・考え方を広げ音楽的な感性を身に付ける学習を展開することは難しい。

そこで、今までに馴染みのない音楽を教材にした題材構成の在り方について明らかにすることは、子どもの音楽の見方・考え方を広げる上で有意義であると考え、本主題を設定した。

2 主題・副主題の意味

(1) 「音楽的な見方・考え方」とは

音楽的な見方・考え方とは、「音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、形づくっている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、生活や文化などと関連付けること」ととらえる。(平成29年6月「小学校学習指導要領解説音楽編」より)

(2) 題材構成とは

学習指導要領の目標や内容を分析し、育てたい資質・能力を明確にして、子どもの実態を把握し、学習に用いる教材を適切に選択して、学習活動の順序性や指導の方法を組織化することである。そのためには、目標を実現する学習活動や学習内容、活動の手順、学習状況を把握する評価の観点や方法を明らかにしておくことが必要になる。

(3) 「郷土の音楽」とは

自分が生まれ育った土地や、郷里、あるいは馴染みのある土地で古くから親しまれ、今も受け継がれている音楽のことである。郷土の音楽を教材とすることによって、その楽曲のもつ音楽的な面白さや郷土で親しまれ受

け継がれている背景に支えられた音や音楽ととらえる。

3 研究の目標

郷土の音楽を教材に用いて、子どもの音楽的な見方・考え方を広げる授業の題材構成の在り方を明らかにする。

4 研究の仮説

子どもたちに馴染みがない音楽を教材として扱うとき、「学習指導要領から」「教材・楽曲の特性」「子どもの実態」「教師の実態」の4つの視点から題材を構成していけば、子どもたちの音楽的な見方・考え方を広げることができるであろう。

5 検証の方法

題材構成を工夫した授業実践を通して、次のことを検証する。

- 鑑賞の活動を中心に、歌唱の活動と器楽の活動を関連させた題材構成の有効性
- 子どもの音楽的な見方・考え方の広がり

II 研究の内容

1 題材構成の基本的な考え方

題材構成にあたっては、子どもに育てたい資質・能力を明確にして、「学習指導要領の内容」「教材分析」「子どもの実態」「教師の実態」を分析し学習活動を組み立てていく。

学習活動と「学習指導要領の内容」「教材分析」「子どもの実態」「教師の実態」の関連を示したものが図1である。まず、学習指導要領の目標・内容からその題材で身に付けさせたい資質・能力を明確にする。次に、目標を設定し、選定した教材の分析を行う。さらに、子どもの実態や教師の実態を鑑み、学習活動の順序や指導の方

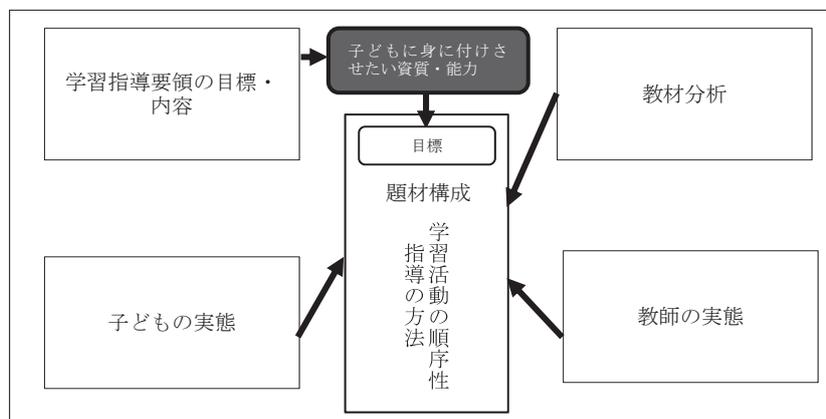


図1. 学習活動と「学習指導要領の内容」「教材分析」「子どもの実態」「教師の実態」の関連図

法を決定するという手順を進める。

今回は、題材「雅楽の調べにのせて『黒田節』を歌おう」を設定し、教材として

ア 「黒田節」 福岡の民謡 … 【歌唱の活動】【鑑賞の活動】

イ 「越天楽今様」 日本古謡 慈鎮和尚作歌 … 【歌唱の活動】

ウ 「『雅楽』平調越天楽」 … 【鑑賞の活動】

エ 「雅楽による黒田節」 … 【鑑賞の活動】

オ 合奏「黒田節」 … 【器楽の活動】

を取り上げる。共通教材である「越天楽今様」及び「黒田節」で歌唱の活動を、「『雅楽』越天楽」「雅楽による黒田節」で鑑賞の活動を、「合奏『黒田節』」で器楽の活動を行い、鑑賞と表現（歌唱、器楽）の活動で構成することにした。

2 音楽的な見方・考え方を広げる題材構成の実際

今回取り組んだ題材「雅楽の調べにのせて『黒田節』を歌おう」を例にして題材構成について述べる。この題材では、次の資質・能力を身に付けさせたいと考えた。

【知識及び技能】

- 「黒田節」「越天楽今様」「雅楽」の曲想と音楽の構成などとの関わり
- 伝統音楽の特徴を生かした歌唱表現の発声や器楽表現するための演奏技能

【思考力、判断力、表現力等】

- 「黒田節」「越天楽今様」「器楽合奏黒田節」の表現に対する思いや意図
- 「『雅楽』越天楽」「雅楽による黒田節」の演奏のよさを味わうこと

【学びに向かう力、人間性等】

- 郷土の音楽への関心を高め生活をよりよくしようとする態度

その後、題材構成をする4つの視点「学習指導要領の内容」「教材研究」「子どもの実態」「教師の実態」を明らかにしていった。

(1) 「学習指導要領の内容」から

第6学年の学習指導要領には、表現、鑑賞の内容として資料1、2、3のように示されている。下線部は本題材で取り上げる内容である。

以上の内容の中から、表現の歌唱では、アの「歌唱表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもつこと」とウ(イ)の「呼吸及び発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない、響きのある歌い方で歌う技能」という資質・能力を身に付けさせるため、「越天楽今様」や「黒田節」の歌詞内容をとらえ、

曲想に合った自然で無理のない発声で歌わせ、曲のよさやおもしろさを感じ取らせる。鑑賞では、アの「鑑賞についての知識を得たり生かしたりしながら、曲や演奏のよさなどを見だし、曲全体を味わって聴くこと」とイの「曲想及びその変化と、音楽の構造との関わりについて理解すること」という資質・能力を身に付けさせるた

資料1 学習指導要領の内容【A表現 歌唱】

A 表現 歌唱

ア 歌唱表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもつこと。

イ 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解すること。

ウ 思いや意図に合った表現をするために必要な次の(ア)から(ウ)までの技能を身に付けること。

(ア) 範唱を聴いたり、ハ長調及びイ短調の楽譜を見たりして歌う技能

(イ) 呼吸及び発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない、響きのある歌い方で歌う技能

(ウ) 各声部の歌声や全体の響き、伴奏を聴いて、声を合わせて歌う技能

資料2 学習指導要領の内容【A表現 器楽】

A 表現 器楽

ア 器楽表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもつこと。

イ 次の(ア)及び(イ)について理解すること。

(ア) 曲想と音楽の構造との関わり

(イ) 多様な楽器の音色や響きと演奏の仕方との関わり

ウ 思いや意図に合った表現をするために必要な次の(ア)から(ウ)までの技能を身に付けること。

(ア) 範奏を聴いたり、ハ長調及びイ短調の楽譜を見たりして演奏する技能

(イ) 音色や響きに気を付けて、旋律楽器及び打楽器を演奏する技能

(ウ) 各声部の楽器の音や全体の響き、伴奏を聴いて、音を合わせて演奏する技能

資料3 学習指導要領の内容【B鑑賞】

B 鑑賞

ア 鑑賞についての知識を得たり生かしたりしながら、曲や演奏のよさなどを見だし、曲全体を味わって聴くこと。

イ 曲想及びその変化と、音楽の構造との関わりについて理解すること。

め、「雅楽」の背景や楽器のつくりを理解し、ずれなどの雅楽のよさを感じ取らせる。器楽合奏では、アの「楽表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもつこと」とイ(イ)の「多様な楽器の音色や響きと演奏の仕方との関わり」、ウ(イ)の「音色や響きに気を付けて、旋律楽器及び打楽器を演奏する技能」という資質・能力を身に付けさせるため、雅楽の音色を身近な楽器で表現することで雅楽のよさやおもしろさを味わわせる。

そこで、本題材の目標を次のように設定した。

- 「黒田節」「越天楽今様」「雅楽」の曲想と音楽の構成などとの関わりについて理解し、伝統音楽の特徴を生かした歌唱表現や器楽表現するために発声や演奏技能を身に付ける。【知識及び技能】
- 「黒田節」「越天楽今様」「器楽合奏黒田節」の表現に対する思いや意図をもち、「『雅楽』越天楽」「雅楽黒田節」の演奏のよさ等を見出しながら音楽を味わって聴くことができる。【思考力、判断力、表現力等】
- 雅楽の調べによって郷土の伝統音楽の「黒田節」を歌う学習に創造的に取り組み、郷土の音楽への関心を高め生活をよりよくしようとしている。【学びに向かう力、人間性等】

(2) 教材分析

教材分析では、楽曲を音楽的要素から分析していくことと、それらの要素が醸し出すよさやおもしろさをとらえるという2つの面を明らかにすることが求められる。資料4は、ア「黒田節」福岡の民謡、イ「越天楽今様」日本古謡の構成要素を知覚・感受してとらえたよさやおもしろさを示したものである。資料9は、ウ「『雅楽』平調越天楽」、エ「雅楽による黒田節」の構成要素を知覚・感受してとらえたよさやおもしろさで、資料11は、カ器楽合奏「黒田節」の構成要素を知覚・感受してとらえたよさやおもしろさである。それぞれ下線部は学習活動として取り上げた内容を示している。

ア 「黒田節」の背景と教材分析

「黒田節」は江戸時代に福岡藩で流行していた「筑前今様」を歌ったものである。資料5に示した歌詞が「『雅楽』越天楽」の節にのせて歌われる。

資料6は、小学校6年生が歌う音域を考え書き起こした楽譜である。最低音と最高音が13度離れており、四分音符と八分音符のリズムを中心に構成されている。1小節目と13小節目に見られる付点四分音符のリズムが歌詞の韻を強調し特徴的である。よってこの曲のよさ・おもしろさを「ゆったり堂々とした威厳が感じられる曲」ととらえる。

イ 「越天楽今様」 日本古謡 慈鎮和尚作歌

平安時代になると、当時の古風な歌・民謡に対して、現代的な歌という意味で「今様」が歌われるようになった。鎌倉時代に僧侶慈鎮の手によって唄われた資料7の歌詞「春の弥生のあけぼのに よもの山辺を見渡せば 花盛りかも 白雲の かからぬ峰こそ なかりけれ」が、雅楽の管絃の曲「越天楽」の旋律に載せて歌われた。「越天楽今様」は、現在小学校学習指導要領音楽で第6学年の歌唱の共通教材に取り上げられている。

歌詞は一節で春の穏やかな様子を二節で梅雨の中にも花の香りで満たされている満足感を歌っている。黒田

資料4 教材解釈 「黒田節」「越天楽今様」 歌唱教材

	構成要素	よさやおもしろさ
黒田節	独唱 4/4拍子 4小節の単位の4つのフレーズで構成 みやこ節	歌詞が話になっている 胸声でどっしりと歌う感じ 力強い 等
	斉唱 4/4拍子 4小節単位の4つのフレーズで構成	「『雅楽』越天楽」の旋律にのった歌 春の景色ののどかな様子を歌った曲 神社で流れているような感じ 優しい感じ 等

資料5 「黒田節」歌詞

一節 酒は呑め呑め呑むならば 日の本一のこの槍を
呑みとるほどに呑むならば
これぞまことの黒田武士(くろだぶし)
二節 峰のあらしか松風か 訪ぬる人の琴の音か
駒をひきとめ立よれば 爪音たかき想夫恋
三節 春の弥生のあけぼのに 四方の山辺を見わたせば
花のさかりも白雲の かからぬ峰こそなかりけれ
四節 花橋も匂うなり 軒の菖蒲も香るなり
夕暮れまえのさみだれに 山ホトトギス名のりし

資料6 「黒田節」楽譜

黒田節

資料7 「越天楽今様」歌詞

「越天楽今様」歌詞
 1番「春の弥生のあけぼのに
 よものやまべをみわたせば
 花盛りかもしらくもの かからぬみねこそ
 なかりけれ」
 2番「はなたちばなも におうなり のきのあやめも
 かおるなり ゆうぐれさまの さみだれに
 やまほととぎす なのるなり」

資料8 「越天楽今様」楽譜

越天楽今様



資料9 教材解釈 『雅楽』越天楽」「雅楽による黒田節」 鑑賞教材

	楽器	構成要素（音色、仕組み）	よさやおもしろさ
管楽器	篳篥	主旋律を演奏する リードをもち、草笛のような音色 不安定な音程	楽器の大きさとは反対に音量はとても豊かで、力強い神社にいるような神聖な感じが膨らんだり縮んだりする感じ
	竜笛	主旋律を演奏したり飾りの旋律を演奏したりする横笛。フルートに似ている。息の使い方によって同じ指孔で1オクターブという広い音域を出すことができ、装飾的な旋律を奏でる	ゆったりとしていて美しい感じ
	笙	17本の竹管にリードがついているので複数の音が出る。吹いても吸っても音が出る。たくさんの音が一度に出せるので和音を演奏する。	パイプオルガンが静かに鳴っている感じが音が途切れずずっと音が鳴ってどこまでも続く感じ
打楽器	鞆鼓	一定のリズムパターンを演奏し、全体の速さを決め、終わりの合図を出す。鼓の一種で、木製の台の上に奏者の正面に横向きに置き、二本の桴を使って左右両面を打つ よく響く高い音	玉が転がっていくように演奏される感じ
	楽太鼓	リズムパターンの区切りを示す。楽太鼓とは雅楽で使用される平太鼓を円形の桴に吊るした太鼓 先端に草を巻いた二本の桴で力強く草面を打つ リズムパターンの区切りを示す。	体に響くような重圧さを感じる音
	鉦鼓	リズムパターンの区切りを示す。金属製の皿型を架台に吊るし、玉谷牙、水牛の角などの固い素材で作られた二本の桴で凹面を打って鳴らす楽器	全体を引き締めるような音
弦楽器	楽琵琶	4本の弦をもつ。低い音。一定の音型を演奏し拍を示す。アルペジオで演奏される。	低いピアノのような音
	楽箏	13本の弦をもつ。低い音。落ち着いた音色。一定の音型を演奏し小節の中ではリズムの流れを奏する。	低く落ち着いた感じの音

全体の分析	雅楽の全体よさやおもしろさ
ゆったりとした速さ 拍がとりにくい 様々な音の響き	○音程が一定でなく、途中で音が膨らむように聞こえたところがおもしろい。 ○ゆったりと演奏されていて拍が感じられないため、楽器がずれて演奏される。 ○不協和音で演奏されていて神社でよく聞く音楽だ。 ○鞆鼓は球が転がるようにゆっくりからだんだん速くなって止まる感じがする。

節の第3節と第4節と同じ歌詞であることから、当時、人々に親しまれていたことがうかがえる。資料8は「越天楽今様」の楽譜である。旋律は四分音符を中心としたリズムで構成されており、最低音と最高音の差も11度で、黒田節より歌いやすい楽曲である。よってこの曲のよさ・おもしろさは「日本の美しい光景を歌うのどかで優雅さが感じられる曲」ととらえる。

ウ 『雅楽』越天楽

資料9は、「『雅楽』越天楽」「雅楽による黒田節」を教材分析したものである。

雅楽は唐楽と呼ばれる中国系の音楽「左方の楽」と朝鮮系の音楽「右方の楽」に分類される。それぞれに管弦と言われる器楽合奏曲と舞楽といわれる舞がある。「左方の楽」と「右方の楽」では、演奏する調子や使用する楽器が異なる。現在、小学校音楽科鑑賞の教材曲に扱われている『雅楽』越天楽は、演奏される調子（平調）や使用される楽器（竈笛、箏、笙、箏、琵琶、太鼓、鞆鼓、鉦鼓）から見ると「左方の楽」の流れである。柴田南雄（1988）は、「ともかく今日、雅楽のこうしたすべての特質はむしろ、世界の音楽にも類例のない特異性として、その希少価値が高く評価されていることは言うまでもない。じっさい、日本人は雅楽を聴くことによって、すでに自分たちの周囲から失われてしまった祖先の生活感情や、古代の儀礼を確認するのである。」（音楽とは何か「日本の音楽・世界の音楽」と述べ、雅楽の世界に誇る特質を主張している。

エ 「雅楽による黒田節」

黒田節の雅楽の演奏は、『雅楽』越天楽と同様の平調で演奏される。

オ 合奏「黒田節」

資料10は音楽室にある身近な楽器で、雅楽「黒田節」を演奏するため西村が編曲したものである。編曲にあたっては島崎篤子・加藤富美子「授業のための日本の音楽・世界の音楽」音楽之友社（1999年）pp.39-40の楽譜を参考にした。

資料11は、資料10の楽譜をもとにして行った器楽合奏の黒田節の教材分析である。

雅楽を身近な楽器で演奏する際には、例えば笙の不協和音は同じリード楽器である鍵盤ハーモニカで、箏は吹き込む息の量で音を膨らませることができるとリコーダーで表現するなど、楽器の特徴を考えさせて代替楽器を決定する。合奏に当たっては、音程は揃えず、拍子感もなしに各パートのずれを味わいながら演奏すると、雅楽の特徴がよくあらわれる。

(3) 児童の実態

検証授業前に6学年の子どもたちへ「郷土の音楽について知っているものを挙げてください。」と問いかけた

ところ、具体的な曲名を挙げる事ができた子どもは全体の10%にとどまっていた。子どもたちは資料12に示すように我が国の音楽については、学習を積み重ねてきている。

郷土の音楽や伝統音楽については、教科書に載っている曲について学んだり、運動会等の表現ダンスで「ソーラン節」や「花笠音頭」を踊り親しんだりするものの、知っている郷土の音楽を挙げる子どもが少なかったことは、音楽が自分たちの地域とのつながりを深めたり、自分の生活とのつながりを考える学習になっていなかったことが原因だと考える。一般的な子どもの実態として、資料13のような側面があるととらえた。

(4) 教師の実態

教師にとっても、子どもたちと同様に郷土の音楽や日本の伝統音楽は耳慣れない音楽である。

資料14は、本校で音楽科教育法を受講する前の学生に「音楽の授業をするときに不安なことは何ですか」と尋ねた問いの回答である。

「日本の伝統音楽」の指導について不安を抱いている学生が多いことがわかる。この傾向は若年層の教師にとっても同じであると考えられる。資料15はこれまで、我が国の音楽を教えた経験がある教師の実態からまとめたものである。

以上、題材分析に必要な「学習指導要領の内容」「教材分析」「子どもの実態」「教師の実態」を分析してきた。

次に、「黒田節」「越天楽今様」「『雅楽』越天楽」「雅楽による黒田節」「器楽合奏 黒田節」を教材にした学習の流れを組み立てるため、楽曲の教材化を進めた。教材化については、西村（2017）中村学園大学発達教育センター研究紀要第8号 pp45-pp53で述べた手順で進め、資料16のように学習の流れをまとめた。

資料16の学習の流れをもとに作成した学習活動と内容が資料17である。

この「学習活動と内容」と題材構成であげた四つの視点「学習指導要領の内容」「教材分析」「子どもの実態」「教師の実態」の全体の関連を示したものが資料18である。

資料の中央に示した「学習活動と内容」を見てみると、学習内容は教材分析した内容から抽出されており、「学習指導要領の内容」につながっている。さらに、学習活動は「学習指導要領の内容」と「教材分析」の内容と関連させて組み立てていることがわかる。また、「学習指導要領の内容」だけでは学習内容が具体化されないが、教材分析を丁寧に進めることで、子どもに知覚・感受させたい内容がより明確になり、学習の中での子どもの姿を予測しやすくなる。「子どもの実態」によっては、

資料10 器楽合奏「黒田節」楽譜

The musical score is arranged in two systems. The first system includes parts for: 歌 (Song), りゅうてき (Ryūteki), ひちりき (Hichiriki), 笙 鍵ハ (Shō, Key H), 楽箏 ピアノ (Gakuzō, Piano), 楽琵琶 オルガン (Gakubiwa, Organ), 鉦鼓 (Shōji), and 鞆鼓 小太鼓 (Bōko, Kōtaiko). The second system continues the instrumental parts. The score is marked with measure numbers 1, 2, 3, and 4.

資料11 教材解釈 「器楽合奏 黒田節」 器楽教材

	構成要素	よさやおもしろさ
器楽 黒田節	斉唱 4/4 4小節のフレーズの4段構成 代替楽器 笙パートを鍵盤ハーモニカで 竜笛パートを電子オルガンで 箏パートをリコーダーで 楽箏パートをピアノで 楽琵琶パートをオルガンで 鉦鼓パートをシンバルで 鞆鼓パートを小太鼓で 楽太鼓パートを大太鼓で	音程は不安定なほうが雅楽の雰囲気が出ること 拍感演奏者それぞれがずれていた方が雅楽の雰囲気が出ること リコーダーはタンギングをせず、息を不安定に吹き込むほうが箏の音のふくらみが表現できること 等

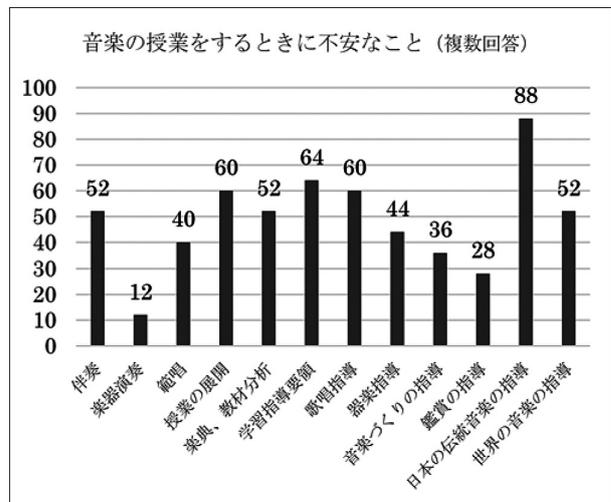
資料12 教科書に掲載されている我が国の音楽の一覧（教育芸術社 平成27年度版）

年	題材名	題材のねらい	教材名 ◎…共通教材 ♪…鑑賞 ☆…音楽づくり
1 学年	にほんのうたをたのしもう	●友達と一緒に歌ったり音楽に合わせて体を動かしたりして、日本に伝わるわらべうたの楽しさを感じ取る。	♪さんちゃんが／おおなみ こなみ おちゃらか かい
2 学年	日本のうたを楽しもう	●日本に伝わるわらべうたの楽しさやよさを感じ取りながら、聴いたり歌ったりする。 ●わらべうたの特徴を感じ取り、音を選んで伴奏の旋律をつくる。	♪ずいずい ずっころばし／あんたがたどこさ なべなべそこぬけ ☆ばんそうあそび
3 学年	日本の音楽に親しもう	●日本の音楽の雰囲気や特徴を感じ取りながら、お囃子の音楽を聴いたり旋律をつくったりして、我が国や郷土に伝わる音楽に親しむ。	♪神田囃子／花輪ばやし／小倉祇園太鼓 ☆ラドレの音でせんりつづくり
4 学年	日本の音楽に親しもう	●日本の音楽の雰囲気や特徴を感じ取りながら、民謡を聴いたり表現したりして、我が国や郷土に伝わる音楽に親しむ。 ●日本の旋律の特徴を感じ取り、音を音楽に構成する過程を大切にしながらまとまりのある旋律をつくる。	♪ソーラン節／南部牛追い歌 ♪トラジ打合／小さな淡黄色の馬 こきりこ ☆ミソラドレの音でせんりつづくり ◎さくら さくら ♪さくら さくら
5 学年	日本と世界の音楽に親しもう	●日本や世界の国々の音楽のよさや、声や楽器の響きの美しさを味わい、それらの特徴を感じ取って聴く。 ●日本の旋律のもつ特徴や美しさを感じ取りながら歌ったり、音楽の仕組みを生かしながら見通しをもって日本の音階の音で旋律をつくったりする。	♪春の海 ◎子もり歌 ☆音階の音で旋律づくり ♪声による世界の国々の音楽
6 学年	日本と世界の音楽に親しもう	●日本に古くから伝わる歌と楽器の音色を味わって、聴いたり歌ったりする ●世界の国々の楽器の音色の特徴や、音楽の雰囲気の違いに気を付けて聴き、諸外国の音楽に親しむ。	◎越天楽今様 ♪雅楽「越天楽」から ♪楽器による世界の国々の音楽

資料13 子どもの実態

<p>Ⅲ 子どもの実態</p> <p>ア 郷土の音楽に対する興味関心が低い</p> <p>イ 「越天楽今様」を知らない</p> <p>ウ 3年生の時、『『ロック』黒田節』を運動会で踊っているものの楽曲と結びつかない</p> <p>エ 「雅楽」について知らない</p> <p>オ リコーダーは一点ド～二点ミまでは指使いを理解しており吹くことができる</p> <p>カ 合奏することに対する興味関心は高い</p>
--

資料14 「学生へのアンケート」



資料15 教師の実態

IV 教師の実態
ア 郷土の音楽に対する興味関心が低く、指導に不安を抱いている。
イ 「越天楽今様」の指導をした経験がある教師が少ない
ウ 「黒田節」が雅楽の音楽であることを知らない
エ 「雅楽」の背景について理解できていない
オ 「雅楽」のよさやおもしろさをつかめていない
カ 合奏指導は楽しいが技能が伴わない

資料16 題材構成した学習の流れ

学習の流れ
1 「越天楽今様」の歌唱曲ののどかな曲想をとらえる。
2 『雅楽』越天楽」を聴き、雅楽の特徴と雅楽の優雅な曲想を捉える。
・「越天楽今様」と相違点の確認（似たような曲想、同じ旋律、歌の曲と楽器の曲）
・雅楽器の特徴（不安定な音程、不協和音が続く笙の音色、など）の知覚・感受
・雅楽器の演奏の特徴（拍感がないこと、個々の演奏のズレ）の知覚・感受
3 「黒田節」を歌い、力強い曲想をとらえる。
4 『雅楽』黒田節」を聴き、雅楽の特徴を確認する。
5 「黒田節」を雅楽の特徴を生かして器楽合奏し、歌と合わせて表現する。

表17 学習活動と内容

	学習活動と内容	学習指導要領	教材分析	子どもの実態	教師の実態
導入	1 範唱 CD を聴き「越天楽今様の曲想をとらえ、歌う。 (1) 曲想をとらえる ・のんびりした感じを表した歌の曲であること ・春ののどかな様子を歌っていること (2) 範唱 CD に合わせて歌う。 ・息継ぎ ・フレーズに気を付けて	歌ア	歌唱 ④⑤	アイ	ア
	2 『雅楽』越天楽」を聴く。 (1) 『雅楽』越天楽」を聴き「越天楽今様」と相違点を発表する。 ・曲名に越天楽とあること ・旋律が同じ ・速さが違う ・歌の曲と楽器の曲 (2) 雅楽の感想を出し合う。 ・よくわからない曲 ・神社で聴くような音楽	歌ウ (イ) 鑑ア	歌唱 ⑥		イ (CD 使用) エ (DVD 使用) キ
展開	3 雅楽器について仕組みと音色をとらえ、雅楽のよさを味わう。 (1) 『雅楽』越天楽」を映像で視聴し、分かったことを発表する。 ・楽器について	鑑ア	鑑賞 ⑤	エ	
1/3	(2) 雅楽器について特徴を知る。 ・箏築…音程が不安定 ・笙…たくさんの音、音が途切れないこと ・鞆鼓…だんだん速く打つこと (3) 雅楽の演奏の特徴をつかむ。 ・拍感がないこと ・パート毎に音がずれて演奏されること ・音程が一定でなく不安定であること	鑑イ	①④ ②⑥ ③⑦		
	3 「黒田節」を歌い、曲想をとらえる。 ・力強い歌詞 ・福岡の歴史とつながっていること	歌ウ (イ)	歌唱 ①② ③		
	4 「雅楽の黒田節」を視聴し、雅楽の特徴を味わう。 ・「黒田節」が「越天楽」と同じ雅楽であること	鑑イ	鑑賞 ④⑤⑥		(DVD 使用)
2/3	5 身近な楽器で「黒田節」を演奏する。 (1) 雅楽器の音色やつくりから代替する身近な楽器を決定する。 (2) 雅楽の特徴を生かして「黒田節」を演奏する。	器ア 器イ (イ)	器楽 ①② ③	ウエ オカ	キ ウ
3/3	(3) 器楽を伴奏に「黒田節」を歌い、学習のまとめをする。 ・郷土の音楽を学習したこと ・長い年月人々から親しまれていること ・雅楽の特徴を知ったこと	器ウ (イ)			

資料18 「学習活動」と「学習指導要領の内容」「教材分析」「子どもの実態」「教師の実態」との関係

<p>身に付けさせたい資質・能力</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「黒田節」の曲想と楽器の構成などとの関わり ○「黒田節」の曲想を生かした歌唱表現の発声や楽器表現するための演奏技術 ○「黒田節」の曲想を生かした歌唱表現の発声や楽器表現するための演奏技術 ○【思考力・判断力・表現力等】「黒田節」の曲想と楽器の構成などとの関わりについて理解すること ○【学びに向かう力、人間性等】「黒田節」の曲想と楽器の構成などとの関わりについて理解すること ○郷土の音楽への関心を高める生活をよりよくしようとする態度 	<p>資料4 学習指導要領の内容 【表現 歌唱】</p> <p>ア 歌唱表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのような歌うかについて思いや意図をもつこと。</p> <p>イ 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解すること。</p> <p>ウ 思いや意図に合った表現をするために必要な次の(7)から(9)までの技能を身に付けること。</p> <p>(7) 呼吸及び発声の仕方によって、自然で無理のない、響きのある歌い方で歌う技能</p>	<p>資料4 教材分析 「黒田節」「越天楽今様」</p> <p>構成要素</p> <p>黒田節</p> <p>独唱</p> <p>4/4</p> <p>4小節のフレーズの4段構成</p> <p>みやこ節</p> <p>4/4</p> <p>4小節のフレーズの4段構成</p> <p>越天楽今様</p> <p>合唱</p> <p>4/4</p> <p>4小節のフレーズの4段構成</p> <p>【歌唱教材】</p> <p>よさやおもしろさ</p> <p>①歌詞が短くなっている</p> <p>②胸声でどっしりと歌う感じ</p> <p>③堂々として力強い歌</p> <p>等</p>	<p>資料4 学習指導要領の内容 【表現 歌唱】</p> <p>ア 歌唱表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのような歌うかについて思いや意図をもつこと。</p> <p>イ 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解すること。</p> <p>ウ 思いや意図に合った表現をするために必要な次の(7)から(9)までの技能を身に付けること。</p> <p>(7) 呼吸及び発声の仕方によって、自然で無理のない、響きのある歌い方で歌う技能</p>	<p>資料9 教材分析 「越天楽」「雅楽による黒田節」</p> <p>構成要素 (音色、仕組み)</p> <p>楽器</p> <p>笙</p> <p>尺八</p> <p>琵琶</p> <p>琴</p> <p>【鑑賞教材】</p> <p>よさやおもしろさ</p> <p>力強い神社にいらるような神聖な感じ</p> <p>音</p> <p>①膨らんだり縮んだりする感じ</p> <p>②音が途切れずつと音が鳴ってどこまでも響く感じ</p> <p>③玉が転がっていくように演奏される感じ</p>	<p>学習活動と内容</p> <p>導入</p> <p>1 歌唱CDを聴き、越天楽今様の曲想をとらえ、歌う。</p> <p>(1) 曲想をとらえる</p> <p>・のんびりとした感じを表した歌の曲であること</p> <p>・息継ぎに気を付けて歌うこと</p> <p>2 「黒田節」の曲想を聴き、越天楽今様の曲想をとらえ、歌う。</p> <p>(1) 「黒田節」の曲想を聴き、越天楽今様の曲想をとらえること</p> <p>・曲名に越天楽とあること</p> <p>・旋律が同じ</p> <p>・速さが違う</p> <p>(2) 雅楽の感じを出し合う。</p> <p>・よくわからない曲</p> <p>・神社で聴くような音色</p> <p>3 雅楽器について仕組みと音色をとらえ、分かったことを発表する。</p> <p>(1) 「雅楽」の曲と楽器の曲</p> <p>(2) 雅楽の感じを出し合う。</p> <p>(3) 雅楽の演奏の特徴をつかむ。</p>	<p>資料5 学習指導要領の内容 【表現 器楽】</p> <p>A 表現 器楽</p> <p>ア 器楽表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのような歌うかについて思いや意図をもつこと。</p> <p>イ 次の(7)及び(9)について理解すること。</p> <p>(7) 曲想と音楽の構造との関わり</p> <p>(9) 多様な楽器の音色や響きと演奏の仕方との関わり</p> <p>ウ 思いや意図に合った表現をするために必要な次の(7)から(9)までの技能を身に付けること。</p> <p>(7) 音色や響きに気を付けて、旋律楽器及び打楽器を演奏する技能</p>	<p>資料10 子どもの実態</p> <p>ア 郷土の音楽に対する興味関心が低い。</p> <p>イ 「越天楽今様」の学習は初めてである。</p> <p>ウ 3年生の時、「ワグネル」黒田節を運動会で踊っていたものの楽器が結びつかない。</p> <p>エ 「雅楽」について知らない。</p> <p>オ リコーダーは一点下～二点下までは指使いを理解しており吹くことができる。</p> <p>カ 合奏することに対する興味関心は高い。</p>	<p>資料10 子どもの実態</p> <p>ア 郷土の音楽に対する興味関心が低い。</p> <p>イ 「越天楽今様」の学習は初めてである。</p> <p>ウ 3年生の時、「ワグネル」黒田節を運動会で踊っていたものの楽器が結びつかない。</p> <p>エ 「雅楽」について知らない。</p> <p>オ リコーダーは一点下～二点下までは指使いを理解しており吹くことができる。</p> <p>カ 合奏することに対する興味関心は高い。</p>	<p>資料10 子どもの実態</p> <p>ア 郷土の音楽に対する興味関心が低い。</p> <p>イ 「越天楽今様」の学習は初めてである。</p> <p>ウ 3年生の時、「ワグネル」黒田節を運動会で踊っていたものの楽器が結びつかない。</p> <p>エ 「雅楽」について知らない。</p> <p>オ リコーダーは一点下～二点下までは指使いを理解しており吹くことができる。</p> <p>カ 合奏することに対する興味関心は高い。</p>	<p>資料11 教材分析 「器楽合奏 黒田節」</p> <p>構成要素</p> <p>笙</p> <p>尺八</p> <p>代替楽器</p> <p>笙</p> <p>尺八</p> <p>琵琶</p> <p>琴</p> <p>【器楽教材】</p> <p>よさやおもしろさ</p> <p>①笙は不安定なほうで雅楽の響きが出る</p> <p>②尺八は演奏者それぞれがそれぞれに吹奏している方が雅楽の響きが出る</p> <p>③リコーダーはタンギングをせず、息を不安定に吹奏している方が雅楽の響きが出る</p> <p>等</p>	<p>資料11 教材分析 「器楽合奏 黒田節」</p> <p>構成要素</p> <p>笙</p> <p>尺八</p> <p>代替楽器</p> <p>笙</p> <p>尺八</p> <p>琵琶</p> <p>琴</p> <p>【器楽教材】</p> <p>よさやおもしろさ</p> <p>①笙は不安定なほうで雅楽の響きが出る</p> <p>②尺八は演奏者それぞれがそれぞれに吹奏している方が雅楽の響きが出る</p> <p>③リコーダーはタンギングをせず、息を不安定に吹奏している方が雅楽の響きが出る</p> <p>等</p>	<p>資料11 教師の実態</p> <p>ア 郷土の音楽に対する興味関心が低く、指導に不安を抱いている。</p> <p>イ 「越天楽今様」の指導をした経験がある教師が少なくない。</p> <p>ウ 「黒田節」が雅楽の音楽であることを知らない。</p> <p>エ 「雅楽」の背景について理解できていない。</p> <p>オ 「雅楽」のよさやおもしろさをつかめていない。</p> <p>カ 合奏指導は楽しいが技能が伴わない。</p> <p>キ DVD等の機器を使い指導ができる。</p>
--	--	---	--	--	--	---	---	---	---	--	--	---

学習内容をさらに深く追究したり、反対に必要なことだけを押さえたりするなど指導方法を吟味しながら、子どもの実態に応じた学習計画を立てることが大切である。さらに、「教師の実態」によっては、学習機器を効果的に使ったり、ゲストティーチャーに参加していただいたりするなどの支援も有効であると考えられる。

3 検証授業

音楽的な見方・考え方を広げる題材構成で実践した授業について述べる。

(1) 題材名 「雅楽の調べにのって歌おう」

(2) 教材名 「黒田節」「越天楽今様」「『雅楽』越天楽」
「雅楽による黒田節」「『器楽合奏』黒田節」

(3) 題材の目標

○ 「黒田節」「越天楽今様」「雅楽」の曲想と音楽の構成などとの関わりについて理解し、伝統音楽の特徴を生かした歌唱表現や器楽表現するために発声や演奏技能を身に付ける。【知識及び技能】

○ 「黒田節」「越天楽今様」「器楽合奏黒田節」の表現に対する思いや意図をもち、「『雅楽』越天楽」「雅楽黒田節」の演奏のよさ等を見出しながら音楽を味わって聴くことができる。【思考力、判断力、表現力等】

○ 雅楽の調べにのって郷土の伝統音楽の「黒田節」を歌う学習に創造的に取り組み、郷土の音楽への関心を高め生活をよりよくしようとしている。【学びに向かう力、人間性の涵養など】

(4) 授業の時期と授業対象

検証のための授業は、平成29年9月に福岡市A小学校の第6学年3学級を対象に全3時間で実施した。

(5) 授業仮説

歌唱教材「越天楽今様」と鑑賞教材「『雅楽』越天楽今様」、歌唱教材「黒田節」と鑑賞教材「雅楽による黒田節」を比較・対峙させたり、「黒田節」を器楽合奏で表現して雅楽の疑似体験をしたりする学習を通して、それぞれの楽曲のよさ・おもしろさに迫る題材構成を工夫すれば、子どもの音楽の見方・考え方を広げることができるであろう。

(6) 授業の実際

資料19は、検証授業3時間分の流れをまとめたものである。一部、西村のB小学校での実践を含む。

3 検証の結果

歌唱教材「越天楽今様」と鑑賞教材「『雅楽』越天楽」、歌唱教材「黒田節」と鑑賞教材「雅楽による黒田節」、「器楽合奏 黒田節」を用いた題材構成について

1/3時では、古謡の「越天楽今様」と「『雅楽』越天楽」を関連させ学習した。「越天楽今様」は馴染みのない音楽だったため、歌ったときは「速さが遅いので歌いにくかった」「言葉が難しかった」という歌い方に関する感想が多く出された。一方「伴奏に高い金属的な音（鐘）や笛の高い音が使われていてきれいだった」「遅い感じが春ののんびりした様子をあらわしている」という伴奏に使われている楽器の音色に気付いた感想もあった。この後、「『雅楽』越天楽」を聴かせ「越天楽今様」と旋律が共通であることを確認し、旋律に親しんだ後に雅楽の映像を視聴させると、「越天楽今様の伴奏で使われていた太鼓の音がまた使われている」という楽器に着目した意見や、「ゆったりとしている」「拍がとりにくい」「鞆鼓のリズムがだんだん速くなっていく」「音がずれている」と言った演奏の仕方に着目した意見が出され、歌唱曲「越天楽今様」と共通する特徴や雅楽の特徴をとらえていた。

2/3時では、郷土の音楽の「黒田節」と「雅楽による黒田節」を教材に取り上げた。「黒田節」が雅楽の音楽であることに驚いていたが、「『雅楽』越天楽」でとらえた雅楽のよさ・おもしろさを「雅楽による黒田節」でも同じように感じ取っていた。

3/3時では、「雅楽の調べにのって黒田節を歌おう」と投げかけ、「雅楽器を身近な楽器で代用するにはどんな楽器を使おうか」「雅楽の特徴を生かした演奏にするためにはどのように演奏したらよいか」などを考えさせながら学習を進めていった。合奏の場面では、「なかなかパート音が合わないけど、ずれることが雅楽のよさだから」「もっと音程を不安定にするといいよ」「速さはどのくらいがいいかな」と雅楽の特徴をとらえて器楽合奏に生かす姿が見られた。

資料20は、授業前と授業後の子どもたちの雅楽の特徴の聴き取りを比較したグラフである。授業後は、雅楽の特徴である「ズレのおもしろさ」「楽器の特徴」「拍感のあいまいさ」をとらえていることがわかる。

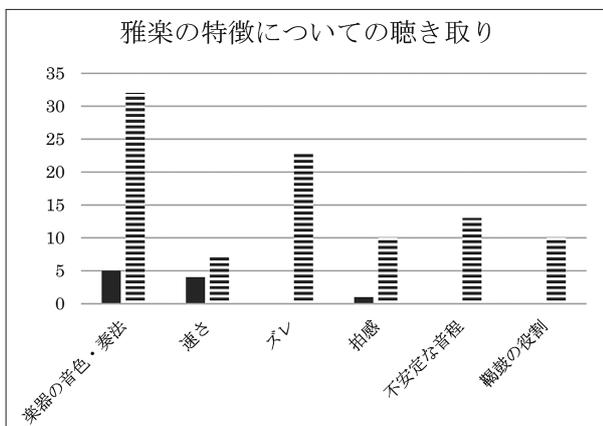
子どもたちの感想の中には、「身近な合奏で雅楽のような演奏ができるのがおもしろい」「合奏では笙の楽器をやってみたい。いろんな音が出ておもしろいからです。」と鑑賞で学んだことを器楽表現で生かしたいと言った複数の教材に関わる感想が多く見受けられた。

以上のことから、歌唱の活動と鑑賞の活動を組み合わせたり、さらに器楽の活動を組み合わせたりする題材構成をすることで、拍感のあいまいさ、不安定な音程、ズレなどで代表される日本の伝統音楽のおもしろさに迫らせることができたと考えられる。

さらに、郷土に身近な楽曲である「黒田節」について、実際に家庭や地域で「黒田節」についての話を聞いて

		○「黒田節」が「越天楽」と同じような響きで演奏され、同じ雅楽であることをとらえさせるために、雅楽で演奏されている映像「黒田節」を視聴させる。	
3/3	5 身近な楽器を使って「黒田節」を器楽合奏する。 (1) 身近な楽器から、雅楽器に代替する楽器を選ぶ	○身近な楽器で「黒田節を演奏しよう」と投げかけ、代替する楽器を決定させる。 ○個別に練習する時間をとる。	「楽太鼓は大大鼓のような音がする。構造が似ているからだ。」 ○身近な楽器や器楽室のオルガンから雅楽器に合う音色を選んでみる。
雅楽の調べにのって「黒田節」を歌おう			
	(2) 雅楽の特徴を生かして「黒田節」を演奏する。 (3) 器楽を伴奏に「黒田節」を歌い、学習のまとめをする。 ・郷土の音楽を学習したこと ・長い年月人々から親しまれていること ・雅楽の特徴を知ったこと	○「拍のずれ」「不協和音」などを感じるとともに、あえてずらしたり音程を不安定にさせたりすることを意識して演奏することを助言する。	○雅楽の特徴である「音程の違い」「ずれ」を生かして演奏できた。 「本物の楽器を見てみたい。」 「合奏は楽しかった。」

資料20 授業前後の雅楽の特徴に関する子どもの聴き取り状況の比較（左が授業前、右が授業後）
n=43 平成29年9月



たり、一緒に歌ったりする場面が生れた。このことは、今回の学習指導要領がねらう「音や音楽と自分との関わりを築いていけるよう、生活や社会の中の音や音楽の働き、音楽文化についての理解を深める」ことや、「音楽を聴いてその価値などを考え、我が国や郷土の伝統音楽に親しみ、よさを一層味わう」ことにつながるものだと考える。

III 研究の成果と課題

(1) 研究の成果

- 題材構成を「学習指導要領の内容」「教材分析」「子どもの実態」「教師の実態」からとらえたことについて

て

「学習指導要領の内容」を押さえることで、どんな資質・能力を身に付けさせるのかを明確にできた。また、「教材分析」を楽曲の音楽的な構成要素を分析し、その楽曲のもつよさ・おもしろさをとらえたことは、学習指導要領に示されている〔共通事項〕の知覚・感受の内容を押さえ、子どもたちに何を聴き取らせ、何を感じ取らせたいかを明確にすることにつながった。さらに、「子どもの実態」については、子どもの発達段階やレディネスの状況を把握し、子どもにとって身近な素材を教材として活用しながら学習を進めたことで、学習への意欲を高めることができた。「教師の実態」については、音楽を苦手とする教師の実態を鑑みたときに、学習活動を支援する様々な方法を探ることが求められる。以前、題材「雅楽に親しもう」、教材「越天楽今様」「『雅楽』越天楽」で題材構成を行った5年生の授業では、雅楽を演奏する楽所にゲストティーチャーとして参加してもらうことで、実際の演奏に触れ話を伺ったり、疑似的な体験活動である合奏をする経験したりしながら、効果的に雅楽に触れる学習を進めることができた。教師の実態によっては、ゲストティーチャーを招いた学習や映像などの機器を使っての学習は、子どもの活動を支える支援となると考える。

- 歌唱教材「越天楽今様」と鑑賞教材「『雅楽』越天楽今様」を、歌唱教材「黒田節」と鑑賞教材「雅楽による黒田節」「器楽合奏 黒田節」を用いた題材構成の有効性
歌唱の活動や鑑賞の活動、さらに器楽の活動を取り入

れて題材を構成したことで、日本古謡の「越天楽今様」と『『雅楽』越天楽』、『『雅楽』越天楽』と「雅楽による黒田節」「黒田節」と「雅楽による黒田節」を比較して、共通点や相違点を聴き取りそれぞれのよさ・おもしろさをとらえることができた。また、「黒田節」を器楽合奏する学習を組み込んだことで、第1時、2時でとらえた雅楽のよさ・おもしろさを生かして演奏するなど、より深い学習が展開できたと考える。

子どもたちの感想にも、「3検証の結果 3/3時」で記したように、一つの教材で学習したことを次の教材に生かし思考していることが伺えた。授業参観者の教師の感想には、「複数の教材を使って『共通点』や『相違点』を確認しながら学習が進められていたので、授業のねらいがより明確になってわかりやすかった。」と述べられていた。このことから、題材構成を工夫することで授業のねらいが明確になり、子どもの音楽的な見方・考え方がより広まる学習が展開できたと考える。

○ 郷土の音楽等、子どもや教師にとって馴染みのない音楽を取り上げて題材を構成する手順が明らかになったこと

「黒田節」等を使って郷土の音楽を教材化し題材を構成していった。「学習指導要領の内容」「教材の分析」「子どもの実態」「教師の実態」の関連を通して指導する内容を押さえ計画を立てていくことが題材構成においては大切であることが分かった。この手法を使えば耳慣れない世界の音や音楽に触れる学習や声明などの日本の伝統音楽を教材化することも可能になり音楽的な見方・考え方を広げる学習が展開できると考える。

(2) 今後の課題

○ カリキュラムマネジメントの工夫

学習指導要領の目標と内容を分析して題材を構成してきたが、年間指導計画において、身に付けさせたい資質・能力を本当にこの題材で指導することが最適かどうかを吟味する必要がある。そのために、題材毎の指導記録や授業評価を行い、カリキュラムをマネジメントしていくことが大切だと考える。

○ 題材構成を工夫したことで身についた資質・能力を明らかにすること

今回は、「雅楽の調べにのって歌おう」という題材で学習を進めた中で子どもたちの学びを評価した。しかし他の題材構成で「越天楽今様」等の学習をした場合の子どもたちの学びと比較検討したものではないため、題材構成の有効性を明らかにするためには、他の題材での学習と比較することが求められる。

○ 我が国の音楽や郷土の音楽、世界の音・音楽などをとり上げた題材構成の提案

耳慣れない音楽のよさに触れる学習は、子どもの価値

観を広げ、子どもの音楽的な見方・考え方を広げる上で意義深い。我が国の音楽や郷土の音楽、世界の音・音楽などを教材に取り上げた題材を構成し、実践を積み重ねていくが必要になっていく。

引用文献

- 1) 文部科学省「小学校学習指導要領解説 音楽編」文部科学省ホームページ(2017年)
- 2) 田中智志「音楽教育を哲学する(『音楽教育ヴァン vol 7』より 音楽芸術社(2006年))
- 3) 柴田南雄著 岩波講座「日本の音楽・アジアの音楽1 概念の形成」より「音楽とは何か」岩波書店(1988年)

参考文献

- 1) 文部科学省「小学校学習指導要領解説 音楽編」開隆堂出版(2008年)
- 2) 音楽之友社「小学生のおんがく1」(2015年)「小学生の音楽2~6」(2015年)小原光一著 ほか13名 教育芸術社
- 3) 教育芸術社「小学生の音楽6」指導書 研究編 小原光一著 ほか13名 教育芸術社
- 4) 島崎篤子・加藤富美子「授業のための日本の音楽・世界の音楽」音楽之友社(1999年) pp.39-40